



直峰通信

令和2年12月22日（火）発行

「木々に初雪が降りかかっている景色がきれいなんですよね」と話していたのもつかの間でした。初雪はあっという間に降り積もり、すっかり雪深い2年ぶりの安塚の冬景色です。

日頃より本校の教育活動に御理解御支援いただきましてありがとうございます。本校では25日に終業式を迎えます。年替わりを迎えるこの時期は、誰しも今年を振り返り、来年の抱負を考えるものです。感染症の拡大、そして大雪による立ち往生や停電など、災禍が目立つ今年の年の瀬ですが、この時間を使って、一旦心を整えて、個人としても組織としても、来年の準備や抱負を考えていきたいものです。予測不可能な時代にもたじろがないように。

各学年 各種講習会と学習会 12/2.9(水)

期末考査が終わった12月、1学年はまずSNS教育(2回目)として、自身のSNS使用の程度や内容について考える時間を持ちました。生徒は情報の授業で学んだ学習内容と関連づけながら、自身のスマホ等の使い方について振り返りました。〔写真上〕 また、職業講話ではハローワークから講師を招き、卒業後の進路を意識しながら、学校生活をどのように送るべきかを考えました。今年は企業見学を行えませんでした。生徒はこちらの期待以上に講師と言葉を交わしながら、知識や認識を深めていたようです。



同じくインターンシップを経験できなかった2年生も、NPO進路教育研究所から講師を招き、自己理解を深めるための作文に取り組みました。過去の自分を振り返り、また対話を通しさまざまな観点から自己のPR点を見つけ出していました。

卒業が近づく3年生は社会人になる準備として、まず年金セミナーにおいて、年金の仕組み(納入しなかったときの弊害)や多様な年金の種類を学び、次に消費者講座において、注意しなくてはならない契約や取引について学びました〔写真下〕。



講師を務めていただいた金融広報アドバイザーの豊富な実体験(失敗談)は生徒の印象に強く残ったようです。「引かなかったとしても冷静な対応をしたいと思います」(3年中山翔太さん)。

ちなみに、「188(いやや)」は全国共通の消費者ホットラインの電話番号です。

「地域の声を聞く会」 12/18(金)

大雪のさなか、地域や学校関係者の方々14名にお越しいただき、この会を開催できました。皆様から貴重な御意見、御質問をいただきました。小さい学校でも地域の方が常に見てくださっていることや、この地域の多くの学校が同じ課題を抱えており、それぞれが工夫して指導にあたっておられることを実感しました。温かみや熱をいただく機会となりました。以下に質疑応答の記録を載せます。

【質問1】就職選考において苦労した点はあるか。

(回答)今年の3年生は全員欠席数が少なく、書類上自信を持って応募できる生徒であった。素直でまっすぐな性格の生徒ばかりである。内定未定者も若干いるが、志望先選びで時間をかけ熟考している段階である。感染症拡大の影響で、例年より1ヶ月選考試験が遅れ、求人数の低

下や選考結果の落ち込みが心配されたが、それほど低くなることはなかった。安塚分校に限らず上越地区の高校は、県内平均より高い結果を残し健闘している。

【質問2】電子黒板等は全クラスで使える状況にあるか。

(回答)電子黒板は全校で6台設置してあるので、各クラスで使用可能である。会議室や視聴覚室にも配置し、授業や講演会、職員会議等にも利便が図られている。

【質問3】中学と高校とのこれまでの関わりはどのようなものがあったか。

(回答)ここ6年のなかでは大きな交流を持っていない。小学校からは児童が学校訪問に来てくれたり、小学校の文化祭に分校の生徒会が訪れたりしたことがあった。

【質問4】閉校後の校舎はどうなるのか。

(回答)県内においては、閉校した直江津工業高校が上越市の教育プラザになって現在使用されている例がある。まず県が、次に市が活用方法を考えていくことになる。専門学校として再利用が考えられた例もあるが、さまざまな面で条件を整わせる必要がある。

【質問5】安塚分校の強みと弱み、またその弱みに対する改善策は何か。

(回答)強み…生徒一人ひとりに対して教職員が丁寧に接し指導していけること、また、中学校まででは経験できなかった級長や委員長などの役を務める機会が増え、自己表現や先頭に立つ経験を通し、成長していく機会をもてることであろう。

弱み…小さな学校で面倒見よく支えられることで、狭い範囲で満足してしまい、生徒同士で切磋琢磨して自分を伸ばしていく機会がなかなか持てないことが一つ。そのためにも、学校の外へ出向き、企業での就業体験(インターンシップ)や行事などでさまざまな世代の方々とはふれ合い、自己を律する心や幅広い知見を得たいところであった。だが、今年は感染症拡大の影響でそれができなかった。そこは今後の工夫のしどころだと考えている。

【質問6】母校がなくなっていくさみしさを訴える生徒はいるか。またそのような不安を感じている生徒に対する心のケアはどうしているか。

(回答)今のところ、閉校に関して、生徒がさみしさや不安を訴えてはいない。ただし、訴えていないだけで内面では不安などを抱えている生徒がいるのではと推察できる。悩みや不安を表現し相談する力を育てるとともに、担任が中心となり、養護教員やスクールカウンセラーなどを教育資源を活用しながら、生徒の内面把握のために、日頃からこまめに面談などを実施している。

普通のことが普通にできない今年のような難しい時期でも、大過なく学校生活を営むことができたのは、普段からの地域の方々の支えや、保育所から小・中学校までの指導支援の積み重ねがあるからこそ、と考えます。これからも御指導よろしくお願い致します。皆様なにとぞ健康に留意され、令和3年、よい年をお迎えください。

【これからの予定】 12/29(火)～1/3(日)学校閉鎖 1/7(木)3学期始業式、課題考査
1/16.17(土日)大学入試センター試験
1/21(木)～26(火)3学年学年末考査 1/24(日)第3回英語検定

新潟県立高田高等学校安塚分校

〔担当:教頭 沢田貴博〕

〒942-0411 上越市安塚区下方129番地

電話 025-592-2306

FAX 025-592-3541

HP <http://www.takada-h.nein.ed.jp/>

mail school@tadakayszk-h.nein.ed.jp